

島根大学・まち・人がもっとつながる

SHIMADAI

広報しまだい



SHIMANE
University

2018.1

vol. 35

特集

島根大学の国際交流

外国人留学生×チューター サポートから深まる文化交流

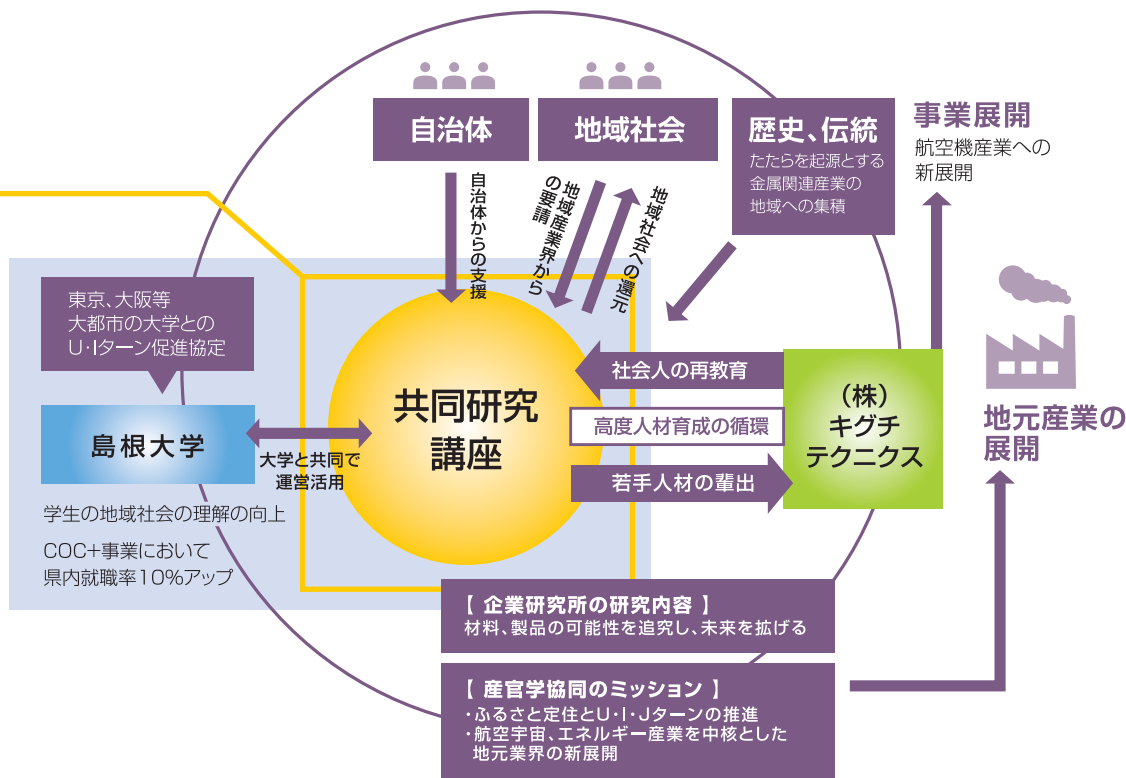
地元企業と大学の相互活性化
キグチテクニクスと共同研究講座を開設

地域と大学の協働
大学改革シンポジウムを開催

地元企業と大学がともに人材育成・産業発展に取り組む キグチテクニクスと共同研究講座を設置

共同研究講座が目指すもの

地域社会とそこに集積された産業を未来につなげる一端を担いたいと考えています。



現在島根大学では、5件の寄附講座を受け入れるとともに、130〜140の共同研究を行っています。新たに設置した共同研究講座は、大学と企業が協議して講座を運営し、知的財産や研究成果を共有、また、企業の研究者を教員として受け入れることが、寄附講座や共同研究と大きく異なる点です。

「キグチテクニクス構造材料共同研

対等な立場での運営 研究のスピードアップに期待

10月18日、本学と安来市にある材料試験所のキグチテクニクスは、本学初の共同研究講座を総合理工学研究科に設置し、服部学長とキグチテクニクス木口代表取締役社長ほか関係者が出席し、看板上掲式を行いました。共同研究講座とは、民間企業と大学が共同で運営する組織で、地方の大学と地元企業が共同研究講座を持つのは、全国でも珍しい事例です。

【特集3】

島根大学の国際交流

- ①タイ短期研修を実施 07
- ②チューターと留学生の島大ライフ 09
- ③島根で活躍する卒業生[留学生編] 11

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①法文学部 及川 稔 准教授 13
- ②総合理工学研究科 岩本真裕子 講師 15
- ③生物資源科学部 川向誠 教授 17
- 「島大会員」発足 19
- 医学部高度外傷センター 21
- しまだい便り 23

■キラリ島大生 24

- しまだい's サークル 25
- 島根スサノオマジック活動紹介
島根大学支援基金寄附者一覧
読者プレゼント 26



1.学内で行った看板掲式の様子。服部学長と木口社長。 2~4.キグチテクニクスの黒鳥工場(サテライト)。

共同研究講座

島根大学 共同研究契約 民間機関等

共同研究講座及び共同研究部門

●概要

民間機関等と大学が協議して運営

期間:2年以上5年以下(更新可)

発明:原則共有(共同研究契約に基づく)

●教員の構成

【原則】

教授又は准教授1名及び教授、准教授、講師又は助教1名

※学長が特に認めた場合は、教授又は准教授1名、特任教授又は特任准教授1名とすることができる。

選任教員以外に共同研究講座の運営に参画することが想定されるスタッフ

・兼任教員 ・大学院生 ・ポスドク ・民間等共同研究員 等

究講座」では、航空機のエンジンに使用される部品の耐熱合金や複合材料をはじめとした高温・高応力下で使用される構造材料に係る研究・開発を目指します。「これまで、企業と大学、それぞれの場所で行っていた研究ですが、大学内に講座を設置して企業の方に常駐していただくことで、常に意見のやりとりをしながら研究を円滑に進めることができます。さらに、研究者間の交流だけでなく、企業と学生との交流も期待できます」と、講座担当の大学院教授は話します。

夢を夢で終わらせない 両者の熱意が実らせた 共同研究講座開設

島根大学と共に講座を運営する「株式会社キグチテクニクス」は、航空宇宙産業へ参入している国内でも有数の試験機関です。航空宇宙関連の国際認証 Nadcap(ナドキャップ)や、IHIやGE、三菱重工業など世界的企業からの認定を取得しています。「日本のものづくりに携わる企業を陰で支えることのできる会社がキグチテクニクスなんです」と木口社長は言います。

島根大学・まち・人がもっとながる

SHIMADAI

広報しまだい

2018.1

vol. 35

【特集1】

キグチテクニクスと
共同研究講座を設置 01

【特集2】

大学改革シンポジウムを開催 05



4.11月8日～11日にメッセナゴヤへ出展し、来場者に向けて共同研究講座をPR。
5.くにびきメッセで10月に行われた金属物性研究会へも参加。

共同研究講座設置のきっかけは、服部学長が総合理工学部の学部長だった4～5年前にまで遡ります。「当時学部長だった服部学長にお会いした際、研究所を作って一緒に研究開発したいですね、なんて話をしていたんです」と、キグチテクニクスの三浦総務部長が当時を振り返ります。「学長に就任されてから、わが社へお越しいただく機会があり、そこでお互い熱く思いを語り合い、少しずつ積み上

げていこうという話になりました」と続けます。乗り越えるべき課題も多く、紆余曲折ありながらも両者の熱意で少しずつ前進、そして、2017年3月には島根大学とキグチテクニクスは包括的連携に関する協定を締結しました。この連携の中核が共同研究講座です。

人を育てること、そして地域での研究開発が夢だと話す木口社長は、「キグチから出向いている社員と

大学の先生方とで、学生さんを手で育てていただいて、やっぱり山陰は良いところだと思ってもらって、活き活きする人材が山陰で活躍していただくことを願っています」と、講座への期待を語ります。さらに、「航空機材にも対応できる独立した試験機関というのは全国でも二社しかないんです。それができる会社が島根県にあるということに誇りを持っています。ですから、こんな会社に勤めてみたいという想いを抱いていただけるような若い人を育てあげたいというのが私の願いです」と続けます。

このような地方における産学連携は全国でも稀だそうで、大学と企業両方の熱意と、「山陰で活躍する人材を育てたい」という共通の想いが、この講座開設の実現に繋がったようです。

講座の活動が本格始動 地域社会と 産業を未来に繋げる

講座の活動はまだ始まったばかり。現在は、研究テーマを選定しているところです。例えばジェットエンジンやガスタービンなどの部材に使

用されるニッケル基超合金について、耐熱性を上げる材料にするためにはどのような熱処理を行えばよいか、というのもテーマのひとつです。「今は世の中の流れとして「低燃費」を求められていますよね。航空機ももちろんそうで、少ない燃料で長く飛びたい。燃費を良くするためにはエンジンの燃焼温度を上げると良いのですが、そうになると、より高い温度に耐える材料が必要になるんです」と大庭教授が説明します。

この他、共同研究講座が主催するEBS D(結晶解析)ゼミを開催しています。現在は大学教員とキグチテクニクスの関係者だけで行っていますが、ゆくゆくは学生も参加できるようにしたいと考えているそうです。また、11月にはメッセなごやへ出展し、共同研究講座等のPRも積極的にを行っています。講座の設置により、島根大学とキグチテクニクスの交流がこれまで以上に活発なものとなり、大学と地域企業の相互活性化の先駆けとなるように、それがひいては地域産業の未来を照らすものになるように、挑戦は始まったばかりです。

キグチテクニクス  島根大学

共同研究講座への期待



株式会社キグチテクニクス
木口 重樹 代表取締役社長

せっかく立ちあがった講座ですから、大学の先生方と自社から出向いた社員とが、話し合いを重ねながら煮詰めたことについて、できる限り協力をしていきたいという想いです。ここで育った優秀な人材が、都会が良いからと出て行ってしまわずに、山陰に目を向けてこの地に一人でも多く残っていただけるように、そして、島根大学の総合理工出身者はこんなにもすごいんだと、社会に出てから言われるような後押しを私たちはしていきたいと思っています。



総合理工学研究科 研究科長
廣光 一郎 教授

総合理工学部は、改組により平成30年度から新しい学科編成で教育や研究を行っています。この改組では地域からの要請に応えられる教育体制の構築を特に重視しました。今回設置された共同研究講座は、産学の連携により材料工学分野の研究を各段に発展させるものですが、私は、教育面での効果にも大いに期待しています。株式会社キグチテクニクスと連携して講座を運営することで、地域産業の発展を先導する人材を育成できると考えています。



株式会社キグチテクニクス
三浦 哲也 総務部長

この講座には「人材の育成」と「研究」という2本の柱があります。キグチテクニクスでは、日頃から人々の生活をより便利に快適にして行くために、さらには、航空機の安心・安全な運行に寄与し人々の尊い生命を守るために、という意識を持って業務に取り組んでいます。この研究もそこに立脚し、先端材料と結晶学というふたつのキーワードをもとに、大きく翼を広げてほしいと願っています。日本において、この分野をけん引するメッカになればと思っています。



総合理工学研究科
大庭 卓也 教授

この講座が、島根県の産業の発展に資するような形になればと考えています。学生の皆さんには、島根県には良い企業がたくさんあることを知ってもらい、本学から県内に人材が出て行き、それが地元産業の活性化に繋がっていくと嬉しく思います。大学で学生を教えていると、学んでいることがどこで役立つのか分からないという声を少なからず聞きます。講座の様子を見ていただくことで、こんな場面で役立つのかというのが見えてくると良いなと期待しています。



株式会社キグチテクニクス
永島 光 試験員
総合理工学部 理工特別コース
物質科学科 平成29年3月卒業

私は総合理工学部の出身です。キグチテクニクスは、合同説明会に参加した際に仕事への自信と責任感を感じ、この人たちと働きたいと思い採用試験を受けました。講座に関する打合せにも参加していて、出身大学と職場が連携することをとても嬉しく思っています。学生のうちに企業の方と接する機会というのは限られているので、一緒に研究をしながら企業情報も知ることができる環境は学生にとってかなりプラスになると思います。



総合理工学研究科
キグチテクニクス構造材料
共同研究講座
遠山 文夫 特任教授

着任してからまだ数か月で手探り状態ではありますが、発展的な可能性を追究するような研究を通して、学生と一緒に成長でき、また少しでも教育に役立てればと思っています。それが地元産業の人材育成、産業の活性化に繋がっていくことを期待しています。今回の講座は、産業界と大学という違う世界の研究者が大学の中で密に連携をとるといって、地域初の試みであり、地域イノベーションがおこるきっかけに繋がればと思っています。

協働的な体験から地域について考える

大学改革シンポジウムを江津市で開催

様々な立場の方と協働して、地域に貢献することを使命とする島根大学。その取り組みの環として、高校生や大学生が地域で行う様々な活動を通じた学びから、より良い地域を目指し、どのようにしていくべきかを考える「平成29年度大学改革シンポジウム」を国立大学協会との共催で開催しました。

大学と地域の対話から 人材育成・地域貢献の あるべき姿を探る

「地域の未来を考えるー未来を創る力とはー」をテーマに、11月3日に江津市の「パレットこうつ」において一般社団法人国立大学協会との共催で大学改革シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、島根県西部地方では初

長や山下江津市長、山本専務理事による総合討論が行われ、それぞれの立場から数々の提言がありました。第Ⅱ部では高校生と大学生のワークショップを開催。「地域の幸福度を測るには」をテーマに、県内8校の生徒と島根大学COC人材育成コースの学生合わせて57名が、活発に意見を交わしました。

今回のシンポジウムには江津市民をはじめ、島根県内の高校生、島根大学学生、教育関係者等178名の参加があり、高校・大学・地域が交流する場となりました。島根大学は今後も地域と連携し、様々な活動を行っていきます。そして、課題に向き合い、地域活性化に取り組む人材を地域、高校、大学が連携しながらどのように育てていくか、皆様のご意見や考えをお聞かせいただく機会をこれからも設けていきます。



参加学生の声

高校生・大学生は、地域活動体験やシンポジウムを通じて、どのように感じ、考え、また、どのような気づきがあったのでしょうか。

「住民が主役」の地域貢献に
寄与できる人材になりたい

今回のシンポジウムに参加して、地域の高校生との議論や、基調講演を聞いてたくさんの気づきがありました。改めて感じたのは、住民が主役で、住民が主体性を持って幸福について考えることが大切だということです。これから自分自身の専門性を高めて、地域の人から真に必要とされる存在にならなければならぬと思いました。



生物資源科学部2年
COC人材育成コース
束村 実菜子 さん

地域の実情に応じた
取り組みの重要性を痛感

ワークショップのお題「幸福度の測りかた」は本当に難しかったです。私は経済面からの視点、地域課題やそれに対する取り組みで測る視点、人との関わりという視点からの幸福度が計測できるのではと思いました。地域ごとに課題や求められる内容が違うので、その地域にフォーカスした取り組みをする事が大切だと改めて感じました。



人間科学部1年
COC人材育成コース
鍛治 虎之介 さん

高校生ならではの視点で
地域に貢献できる活動を

初めて地域活動体験に参加して、多くの方に喜んでもらえる活動をもっとしたいと思っています。シンポジウムでは、特に束村さんの発表で「地域の人に対して意見を求めれば良かった」という言葉が印象に残りました。自分たちだけが楽しいのではなく、地域の人にその活動が必要とされていると実感できることが大切なんだと思いました。



島根県立江津高等学校2年
小川 凜子 さん

人々との交流を通じて
人間としての力を活かす

私たちは地域活動体験で、高齢者の方が不足しがちな栄養素を補うためのメニュー作りをしました。その中で、私たちと高齢者の方々の世代を超えた交流そのものが地域づくりにかかせない事に気づきました。今回の基調講演で言われた人間にしかできない「意味を考える力」を、今後の活動の中で磨いていきたいと思いました。



島根県立矢上高等学校 2年
埜口 未佳 さん

初めての開催です。服部学長、山下江津市長の開会のあいさつで始まり、第1部では国立大学協会・山本健慈専務理事の「高校・大学・地域の連携で育てる未来の力」と題した基調講演、続いて矢上高校、江津高校の生徒、島根大学生による、それぞれの地域活動体験の発表が行われました。その後、服部学



【特集3】 島根と世界の縁結び

島根大学の 国際交流

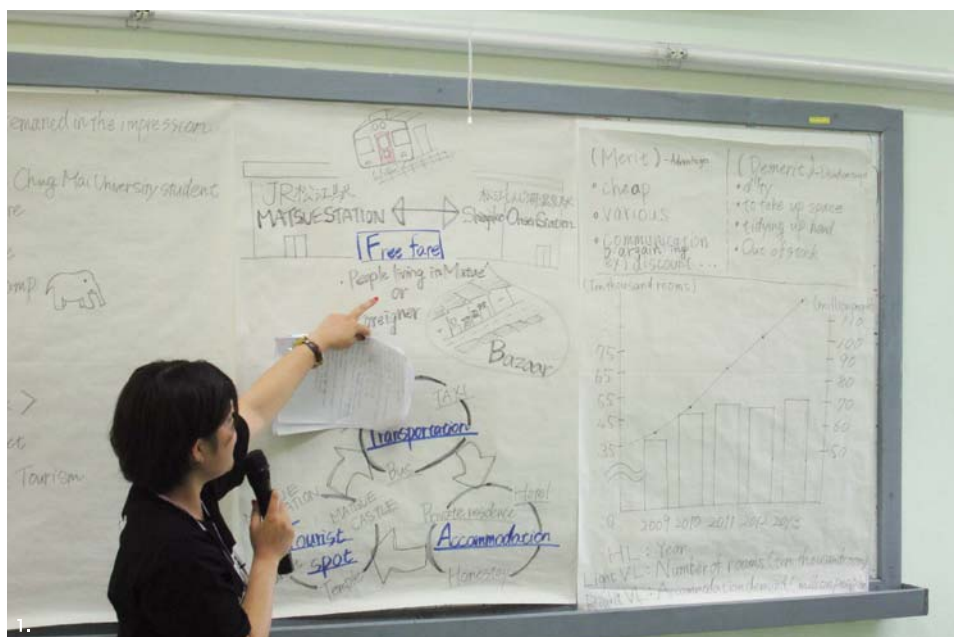
Shimane ∞ World

Episode

1

チェンマイで観光活性化の方策を探る タイ短期研修※を実施

※「グローバル課題解決型研修」(観光開発の現状と課題)



1.最終プレゼンの様子。模造紙に手書きで資料を作成。2.象に乗ってジャングルを歩いたり、川で洗ったりという貴重な経験も。3.ナイトバザールでは現地の人たちと積極的に交流。4.チェンマイ大学での授業の様子。

チェンマイとの比較から 島根の観光を企画提案

8月19日～9月6日の2週間、タイのチェンマイで研修を実施し、学生4名が参加しました。東南アジアにおいて本学主催で全学レベルでの研修を行うのは今回が初めてです。比較的治安が良いことに加え、多くの日本企業が進出していること、そしてチェンマイ大学というパートナーが見つかったこともあり、研修が実現しました。1週目は英語とプレゼン技術を学び、2週目は歴史や文化、環境等の観点から観光の現場を視察。最終日に、チェンマイとの比較から島根の観光について企画提案を行いました。

授業での発表に苦手意識を持っていた学生たちも、日を追うごとに積極的になり、英語力はもちろん、人前で堂々と話すスキルが身に付いたようです。また、地域の観光活性化を考えるうえで、他の地域とどのように異なるのかを知り、差別化を図っていくという視点を共有しました。来年はさらに掘り下げて、島根の地域振興に繋げられるような内容を実施する予定です。

ヒト・モノ・コトに溢れたチェンマイ。
 様々な発見と経験が詰まった研修になりました。

自分の世界と視野が
グンと広がりました。



酒寄 康之 さん

(総合理工学研究科 総合理工学専攻 2年)

海外に出たからこそ気付けた
 様々な視点で考えること

今回の目的のひとつに、固定観念から脱却して広い視野を持ちたいとの想いがありました。将来化学の教員を目指しているので、教員になった際にも様々な視点で物事を考えることは役立つのではと思っていました。また、大学院では学会等で発表する機会も多いため、プレゼンスキルの向上も目指していました。

現状について学び、最終日には「松江の観光客のための交通と宣伝方法」について、チェンマイとの比較から課題と提案をプレゼンしました。

今回の研修は、ひとつの授業だけでも3、4回発表があったので最初は苦手意識が強かったですが、徐々に「一番最初に発表しよう！」と意識が変わっていくのを実感できました。一緒に参加したメンバーは学部も学年もバラバラでしたが、みんな積極的だったこともあって、よい刺激をうけられたと思います。

プレゼンスキルは
今後いろんなところで使えそうです!



代 杏莉 さん

(法文学部 言語文化学科 2年)

苦手分野への挑戦で
ひとまわり大きくなれた

所属する学科の授業でプレゼンをする機会が増えましたが、私は人前での発表がとても苦手でした。今回の研修は英語と同時にプレゼン技術も学ぶことができる聞き、チャレンジの意味も込めて参加しました。授業はすべて英語で、まず内容を理解することが大変だったうえに、毎回発表があったので最初はとても勇気が必要でした。プレゼンの授業では、感情表現を顔で表す、ア

アイコンタクトをするなど技術的な内容が多く、これは日本にいたら学べない貴重な経験だったと思います。研修の最後には、私の出身地・隠岐の観光振興についてプレゼンしましたが、学んだ技術を意識しながらできたと思います。

あつという間の2週間でしたが、日本では見ることができなかったモノ・コトがたくさんありました。特に、プレゼンの技術を学べたことは、今後の大学生活だけでなく就職してからもきっと役立つと思うので、チャレンジして本当に良かったと思います。

「チューター × 外国人留学生」の島大ライフ

島根大学には、外国人留学生に対して、教育・研究面、生活面の様々なサポートを行う「チューター制度」があります。島根大学に在籍する学生がチューターとして、一日も早く日本での生活に慣れ、勉学・研究活動を進められるように支援します。今回は2組のチューターと留学生の大学生活を覗いてみました。



Park Seonjoon

パク・ソンジョンさん

(生物資源科学部 1年 韓国出身)

韓国釜山出身です。父が農業に関わる仕事をしていて日本とも関わりがあったため、日本への留学を決めました。まだ専門分野の授業は少ないですが、井田さんに助けてもらいつつ、研究者を目指して勉強しています。



研究室で扱っている花卉(トウテイラン)の調査。研究室配属がまだのパクさんは、井田さんの調査を見学したり手伝うこともあります。



チューター

井田 大貴さん

(生物資源科学部 4年)

農林生産学科農業生産学教育コースの植物育種学研究室に所属しています。チューター期間は終了していますが、今でも履修登録や市役所での手続き、勉強のサポート、ご飯に行ったりと、定期的に会っています。



勉強の合間に普田公園で息抜きのキャッチボール。



ご飯を一緒に食べに行くこともあります。この日は日本のラーメンと一緒に味わいました。

同じ分野を志す仲間として、自然豊かな島根という環境で

将来の仕事に生きる学びを

井田さんが所属する農業生産学教育コースは、留学生に入りたい研究室を選んでもらい、そこに所属する日本人学生がチューターを行っています。「せっかく同じ分野に興味を持ってもらったので、しっかりサポートしたいと思いました」と、チューターになったきっかけを話します。最初の顔合わせは学生寮でした。「パクさんの方から話しかけてくれてうれしかったのを覚えています」と井田さん。パクさんも「井田さんは優しい印象でした。それは今も変わらずですね」と振り返ります。パクさんの入学当初は、履修登録をはじめ学内外の手続きから、勉強の手伝い、買い物やゴミの出し方など生活のサポートまで、幅広く行っていたそうです。

将来は研究者を目指すパクさんに、学外にも目を向けてほしいと井田さんは言います。「将来、農業に携わっていく上で、山陰は学ぶのにとっても良い環境だと思います。すぐ近くに自然があるので、ぜひ学外にも出ているんなものを見て、将来の仕事に活かしてほしいです」。今後は、学外に学びのフィールドを求めて一緒に出かけることも多くなりそうです。

チューター委嘱期間

2017年4月～2017年9月

チューターの役割とは...

主な役割は、勉学・研究上の支援、日常生活上の支援、対人関係のサポートの3つがあります。担当する留学生の状況がある程度知った上で、留学生が学習面・生活面でいち早く基盤を作れるようなサポートを行っています。

●就学上のサポート

- ・履修手続き、奨学金や授業料減免等の申請などの事務的な手続き
- ・日本語での日常会話の指導や簡単な読み方・書き方の指導

●日常生活上のサポート

- ・市役所での手続き、預金口座開設、スーパーの案内など、生活に関わる情報提供
- ・経済的な問題、メンタル面での問題などへの対応支援

●対人関係のサポート

- ・他の学生とのトラブル、学外での人間関係トラブルへの対応支援

チューター

西田 知世さん

(総合理工学部 4年)

これまでも国際交流活動はたくさんしてきました。留学生と関わることが好きなので、今回チューターをやってみようと思いました。日本の歴史に詳しいマルティナさんから、教わることがたくさんあります。



西田さんとマルティナさん共通の友人が始めた、古民家を再利用したコミュニティハウスにて。すでに何度も足を運んでいるそうで、神楽鑑賞も楽しんだそうです。



Pozywio Martyna Daria

ポジヴィオ・マルティナ・ダリアさん

(法文学部 科目等履修生 ポーランド出身)

ニコラウス・コペルニクス大学の日本学科に所属しています。2016年に短期研修で初来日して以来、もっと勉強したいという思いが強くなり、留学を決めました。日本の日常生活をもっと見て・体感したいです。



11月にはマルティナさんの誕生日会を古民家で行いました。たくさんの留学生・日本人学生が集まって賑やかなお祝いになりました。

日本でしかできないことに、たくさん触れて・出会って 本当の意味での文化交流を

年齢が近く、すぐに打ち解けたという二人。「マルティナさんは日本語が上手くて。サポートが必要ないんじゃないかというくらい驚きました」と初対面を振り返ります。島根大学への留学生で、ポーランド出身なのはマルティナさんだけです。「知世さんが笑顔で迎えてくれて、それを見たときに「一人じゃないんだ!」と思えました」。西田さんは日本で初めてできた友達なのだそう。二人は週に一度会って、何気ない雑談から生活の相談、おでかけの計画まで、話題は毎回盛りだくさんです。

留学期間中、日本でしかできないことにたくさん挑戦したいとマルティナさん。西田さんも「日本にいるからこそ感じられることにどんどん触れてほしいです。日本人学生とも交流して、本当の意味での文化交流をしてほしいですね」と話します。チューター活動は西田さんにとっても新鮮で、自身の知らない分野についてマルティナさんから教わることも多く、海外から見た日本を知ることができたと言います。日常の会話の中から、お互い日本文化を再認識しているようです。

チューター委嘱期間

2017年9月～2018年3月

島大への留学をきっかけに島根で就職

島根で活躍する卒業生[留学生編]

島根大学を卒業後、県内企業で活躍しているのは日本人学生だけにとどまりません。今回は、松江市の「松江アーバンホテル」に勤務する、中国出身で法文学部卒業の陳少華さんにお話をうかがいました。



Profile

陳 少華 さん

(中国出身)



松江アーバンホテル 勤務

中国福建省出身。現在のご主人とともに来日。岡山の日本語学校で学んだ後、2011年に島根大学法文学部言語文化学科へ入学。大学時代にアルバイトをしていたことがきっかけで、大学卒業後2015年3月に浅利観光株式会社に入社。

日本語に囲まれた大学生活が
日々のお客様対応に活かしている

松江アーバンホテルのフロントで、笑顔で迎えてくれたのが中国出身の陳少華さんです。岡山県の日本語学校で学んだ後、島根大学法文学部で4年間学びました。「日本人学生と同じカリキュラムだったので、最初はついていくのが大変でした」と当時の苦労を話します。日本語学校では文法学習が主で、話すことは少なかったため、日本語に囲まれた大学生活で、コミュニケーション力が付いたと言います。このコミュニケーション力が、現在の仕事でも活かされているそうです。

現在の主な業務は、フロントでのお客様対応や予約入力、電話での問い合わせ対応です。入社当初は言葉に不安もありましたが、陳さんの持ち前の積極性と、周囲のスタッフの協力で乗り切ってきました。陳さんが現在の職場と出会ったのは、大学1年の



電話での問い合わせや予約の対応も丁寧にこなします。そんな陳さんも、入社当初は電話をとるのがすごく怖かったのだとか。



「みんなが家族みたいな職場です」と話す通り、バックヤードでは常に笑い声が絶えません。

時です。当時は、松江ニューアーバンホテルのコンビニやレストランでアルバイトとして働いていました。松江ののんびりした雰囲気が好きで、就職は松江でしようと決めていた陳さん。人と接する仕事をしたかったこともあって、現在の職場に就職できないか相談し、正社員として入社が決まりました。この仕事の楽しさについては「毎日違うお客さんと出会えて、話ができること」と話します。

子育ても並行しながら 地域活性の一端を担いたい

11月から産休に入る陳さんですが、早ければ半年後には職場復帰を目指しています。「松江は、安心して子育てができる場所だと感じています。都会に比べて待機児童の問題も少ないので、仕事と子育てを両立していきたいと思っています。仕事の面では、特に敬語の使い分けが難しく、まだまだできない部分があるので、もっと日本語が上手になりたいですね」と、復帰後の目標を話します。

近年、外国人観光客の宿泊数も増えているそうで、今後はそういったお客さんへの対応を求められる場面も多くなってきましたが、そんな時に自分たちの力が必要と陳さんは言います。「島根県も島根大学も、住む・学ぶのにとっても良い環境です。私のように島根大学に留学して島根を好きになって、地域に貢献してくれる外国人学生が増えていくとうれしいですね」と語ってくれました。

VOICE

松江アーバンホテル



一緒に働くスタッフに聞きました

【左】統括マネージャー 川上 雄三さん
【右】フロント係 松浦 宏二さん

Q 外国人の 採用状況について

陳さんは、もともと島根大学在学時より当社でアルバイトをしておられました。そこで、ご本人より当社に就職したいとのご希望がありましたので、正社員として採用となりました。当初はレストランやコンビニエンスストアでの勤務でしたが、昨今インバウンドで海外のお客様も増えてきましたので、彼女の語学力等を活かせる場所としてフロントでの勤務をしていただいております。採用時は、言葉の部分で不安もありましたが、本人の努力と周りのフォローで克服できました。やはり人柄や仕事に取り組む姿勢が良ければ、日本人、外国人はあまり関係ないと思います。(統括マネージャー 川上さん)

Q 陳さんの 職場での様子は？

仕事に対しては、とても積極的だと感じます。母国語ではない日本語での電話対応などは、躊躇してもおかしくないんですが、まず最初に電話を取る、あるいは方言や地域の事など分からないことは、意欲的に質問するなど、前向きで明るい姿勢が周りのスタッフにも信頼を得ています。(フロント係 松浦さん)

Q 今後、島根大学に 期待することは

これは日本人、外国人問わずですが、私たちは観光産業ですので、この地域とともに興味を持つ、あるいは文化や資源などに目を向けるような教育や、携わるという気持ちを持つ人材をたくさん育成して欲しいと思います。また、お客様と笑顔で気持ちよく接客できるコミュニケーション能力も大切かと思えます。また、留学生等の外国人の方々に関しても、まず日本や島根の地域文化やマナー等を覚えていただき、その上で、自国のやり方を融合させる柔軟性を持って頂けると嬉しいです。(統括マネージャー 川上さん)

良質な黒曜石を産出 隠岐の原産地遺跡から 原始の人々の生活を探る



旧石器時代から活用 黒曜石で作った刃物

私たち日本人を含め、今、地球上に存在している人類は、ホモ・サピエンス（現生人類）という同じ種です。約20万年前にアフリカで誕生して以来、少しずつ世界各国に広がっていき、約4万年前に日本列島に到着、定着していったとされています。土器がないこの時期（後期旧石器時代）、人々はおもに、打製石器を使って、狩猟や採集をして、生活を営んでいました。その営みを知る糸口となるのが、当時切れ味の良さから石器素材としてよく使われていた「黒曜石」です。

黒曜石は特定の場所ではしか取れず、日本では約70カ所以上が産地として知られていますが、そのうち良

10万年前から20万年前にアフリカで誕生した、私たちホモ・サピエンス（現生人類）。その後世界中に広がり、日本列島には後期旧石器時代の約4万年前に到着したとされています。社会文化学部の及川穰准教授は、古くから石器に使われていた「黒曜石」の調査を通じ、現生人類の行動を解きほぐしています。



PROFILE

法文学部 社会文化学科
及川 穰 准教授
およかわ むのる

以前、大山の頂上に登ると、隠岐や瀬戸内海が見えました。民俗学者の宮本常一は、「人が新しい場所を知り、住むときには、その土地で一番高い山に登って地理景観を把握することが肝要だ」と語っています。数万年前の現生人類も、頭に地図を描き、空間意識を持って生きていたのだと思います。



1.新たに発見した隠岐の久見宮ノ尾遺跡を学生とともに調査。2.遺跡から採集した石器。左上が槍先形尖頭器(下半折損)、ほか4点は槍先形尖頭器の調整剥片。3.重層層中の黒曜石原石の産出状況。4.発見した遺跡に関する記者発表の様子。



隠岐島で新たに発見 希少な原産地遺跡

質な産地は佐賀県の腰岳や長野県の霧ヶ峰周辺など全国でも数カ所に限られています。その一つが、島根県の隠岐島なのです。「黒曜石は、産地ごとに含まれる微量成分などが違うため、化学的な分析で産地を特定することができます。中国地方では隠岐でしか産出されていないため、産地の細かい特定が可能で、これらが瀬戸内海の島々や山口県の宇部台地、滋賀県などでも見つかっています。現在のようにな定住ではなく、獲物を追って移動しながら暮らしていたことがよく分かります」と及川准教授が説明します。

島根大学に赴任してきた2012年から、毎年7、8回隠岐に渡って調査を実施。地質学の専門家や学生らと共に島内を朝から晩まで歩き回り、約30もの黒曜石の原産地や原産地遺跡を確認してきました。木々をかき分けながら、道なき道“を歩くことも少なくないそうです。「隠岐の人たちにとって黒曜石

は身近な存在で、畑や山の中など驚くほどいろんな場所に落ちていたり、埋まっていたりしています。最近では地元の方々の認識も高まり、『リフォーム工事の時に地面を掘り返したら黒曜石が出てきた』と、石を研究室まで送って下さる方も。地元との協力あつての研究です」。

2017年8月には、隠岐の島町久見で新たな黒曜石の原産地遺跡を発見。それぞれ1500を越える原石やはく片が見つかり、石器も3点ありました。「成功品は使うために他の場所に持っていくので、遺跡に残るのは失敗品ばかりです。この時代には、荒割りにした原石から縦長のはく片をはぎ取って鋭利な石器を作る、石刃技法“という世界共通の高度な技術が生まれています。字も紙もない時代。当時の人たちは頭の中に三次元の設計図が入っていて、角度などを考えながら良質な石器を生み出していったようです」。

数万年前のホモ・サピエンスがどうやって離島である隠岐の黒曜石を見つけ、加工し、各地に運んでいったのか。及川准教授の進める研究には、ロマンをかき立てられます。

腹足類の這う動きを 数理モデルで解明 生物学とのコラボ研究も

数理モデルの構築で
様々な現象を理解

物理学の要とも言われる「ニュートンの運動方程式」。質量 m の物体に、 F の力が作用した時、加速度 a が生じる——というものです。この現象を数式で表すと、 $F = ma$ となります。これが数理モデルです。数理モデルを構築することは、現象を理解することにつながりますし、様々な条件下での現象を一つ一つ実験しなくても、定量的に予測することも可能になるのです。

岩本講師が今、研究しているテーマの一つが、アワビやカタツムリなど腹足類と呼ばれる動物の動きです。「這って動くというのは、人間から見たら低レベルの動きで

「数理モデル」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。様々な現象を数式で表したもので、ニュートンが発見した運動方程式“ $F = ma$ ”もその一つです。総合理工学研究科数理科学領域の岩本真裕子講師は、アワビやカタツムリの動きなどを対象にしたユニークなモデリングを行っています。



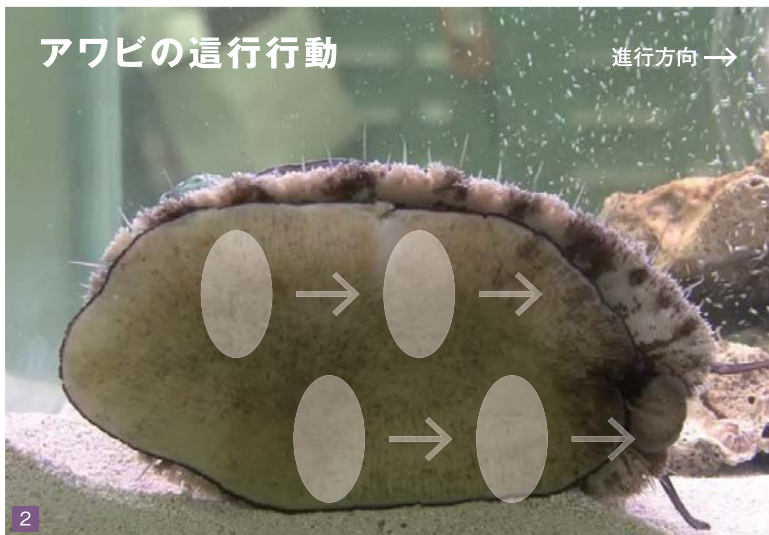
PROFILE

総合理工学研究科 数理科学領域

岩本 真裕子 講師

いわもと まゆこ

大学卒業後の3年間は、中高一貫校で数学の教師をしていました。教えることは非常に面白かったのですが、知っていることを教える教師に対し、毎日新しいことを覚え、分からないことに悩む子供たちがうらやましくて。それで、研究の道に進み、日々楽しく悩んでいます。



1.ブダベストで撮影したカタツムリ。粘液の跡が点状になっていたことで、環境要素もプラスしてモデルを考える必要があるのではと気付いた瞬間だったのだとか。2.アワビの這行行動では、筋収縮で図のような波が現れる。3.県内で高校生を対象にした出前授業の様子。



す。でもその中に高いレベルの動きにつながるものがあるのでは、と考えて調べ始めました。ペットシヨップで対象を探していたら、水槽にへばりついていたアワビがまるで四足歩行で動いているような筋肉の収縮による“波”が見え、驚いたのがきっかけで貝類にはまりました」と岩本講師。早速直径10センチほどのアワビをいくつも仕入れ、観察をスタート。筋肉は、縦長に二列あるように見えますが、前進する時と、方向転換する時では、“波”の向きが変わるなど非常に柔軟で高度な動きをすることが分かりました。

数学を知ること 現実の世界が見える

そこで二列の筋肉にそれぞれ50のバネがあると想定し、力を加えれば、バネの伸び縮みで動くというモデルを考えます(写真2)。「数理モデルは、現象の中の要素をできるだけ減らして、本質的な物突き詰めていくことで作っていきます」。しかし、筋肉を収縮させるだけでは通常動くことは

できず、摩擦を制御する必要があります。さまざまな条件を加えて観察と考察を繰り返しながら、モデリングを実施。その結果、粘液が運動に関係していることが明らかになったと言います。「数学は現実の世界にいっぱい隠れています。状況を把握し、モデルに心を入れることで多くのものが見えてくるのです」と岩本講師は目を輝かせます。

現在は、イカの表皮模様にも注目しています。瞬間的に模様が変わるのは、脳が信号を送っているからですが、そこには筋肉の収縮が関わっているのだと言います。「ならば数式で出すことができませぬ」。モデリングには、生物学の知識も不可欠。多くの論文を読み込み、専門分野の学者とコラボした研究もしています。「数学者じゃないようなことをしています」「人が数学に注目しています。数式は抽象的なので、現実世界のいろんな現象につながってきます。数学を知れば生物学の見方もより広がってくると思いますよ」と話します。

疲労回復や老化防止にも 注目のコエンザイムQ10 生合成解析で増産可能に

コエンザイムQ10の 生成過程を解析

私達が生きていくためには、常にエネルギーを必要とします。ATP（アデノシン三リン酸）と呼ばれる人間のエネルギーは、細胞内にあるミトコンドリアで作られますが、大量にエネルギーを作る時に必要となるのが、補酵素であるコエンザイムQ10なのです。コエンザイムQ10は、生命に不可欠な物質なので、人間の体内でも合成していますが、40歳を過ぎた頃から生成力が衰えます。するとATPの生産力も落ち、臓器などの働きも衰えていくわけです。

コエンザイムQ10には強い抗酸化作用もあります。細胞はエネルギー生成過程で酵素によって傷つき（酸

美容と健康に効くとされ、サプリメントとして人気が高い、コエンザイムQ10（CoQ10）。かつては治療薬でしたが、2001年にサプリとして認可され、多くの人に注目されるようになりました。生物資源科学部生命工学科の川向誠教授は約30年前から研究を続け、生産技術向上に力を入れています。

PROFILE

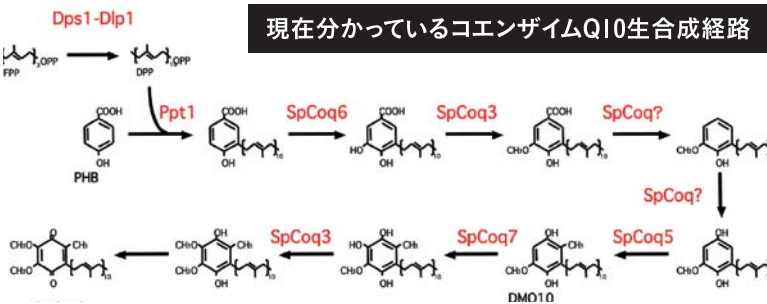
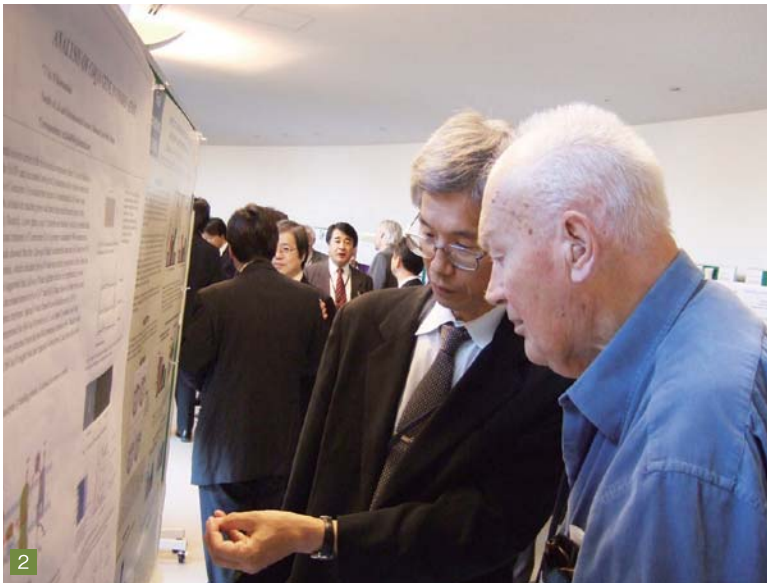
生物資源科学部 生命工学科

川向 誠 教授

かわむかい まこと

私が高校生だった約40年前は、DNAと遺伝子の関係が明らかにされた頃でした。理学部と農学部で進路に悩み、「遺伝子の分野は今後日々進歩するかも」と、今で言うバイオテクノロジーを学ぶ農学部農芸化学科を選択。今に続く長い研究の始まりですね。





1. コエンザイムQ10の量を機械で測定しているところ。実験は学生が担当することも多い。2. コエンザイムQ10を発見したクレーン博士と川向教授。約10年前に撮影した貴重なツーショットだ。



化)、老化や生活習慣病の原因となりますが、コエンザイムQ10はビタミンEと協働で細胞膜などの酸化を防ぐ役割を果たしています。日本では従来、心疾患の治療薬として使われていましたが、サプリメントに認可されてからは、「疲労回復や老化防止、美容効果が期待される」と一気に注目が高まってきました。

川向教授がコエンザイムQ10の研究を始めたのは約30年前。「細胞分裂に関わる遺伝子を調べていた時、周辺にあったコエンザイムQ10の合成遺伝子が面白そうだなと直感したのです。言葉ではうまく説明できませんが、研究にとつて直感って大切。センスが問われるんですよ」と笑います。当時はコエンザイムQという物質自体は認知されていましたが、生成過程は不明で、現在でも完全には解明されていません。コエンザイムQは、大腸菌やマウス、イネでも生成されるので、川向教授らはこれらで実験を繰り返して、少しずつ合成経路を解析してきました。

遺伝子工学技術を使い 生産性を6倍にアップ

現在は、人と同じくコエンザイムQ10を生成できる“酵母”を使った生産性向上に力を入れています。増産を阻む遺伝子や変異体特定し、これらを外した酵母で培養することで従来の6倍まで増産可能になりました。「数千、数万もの酵母を調べた実験でやっと一つひとつのことが分かってきます。初めから役に立つことが分かっていることは、大したことではありません。地道にやっていると、ある瞬間に急に分かっちゃまうことがあるのです」。

コエンザイムQ10の合成の仕組みは、人間も酵母もかなり共通性が高く、酵母で合成経路が分かる」と人間の経路も推測できると言います。「コエンザイムQ10が通常の5分の1以下になると重篤な病気になります。自分の重ねてきた研究が、人の病気の予防や治療にも繋がるといのはうれしいことです。研究というのは、いろんな分野のいろんな人のものが繋がっていきま。自分と誰かの研究が合流した瞬間は相当エキサイティングなんです。今後さらなるステップを解き明かしていきたいです」と意気込みます。

学長 Interview

新しく発足した

「島大会員」

って
何ですか？

キーワードは
“地域と大学が
一緒に楽しむ”
です！



島根大学長 服部 泰直

本学では、2017年10月より「島大会員」を発足させました。また、10月21日には発足を記念して、「島大会員のつどい2017朝枝信彦クラシック・レクチャーコンサート」も開催しました。この「島大会員」とはどのようなものなのか、服部学長に詳しくうかがいました。

Q 島大会員とは何ですか？

— 島根大学のサポーターです！

島根大学支援基金を通じて支援してくださる方の中で、会員に申し込みいただいた方を「島大会員」と呼んでいます。島大の仲間を作っていきたいという趣旨のものです。会員特典として、ご支援の額に応じた島根大学オリジナルグッズもご用意していますよ。

Q なぜ会員制度を作ったのですか？

— 大学と地域、双方向の関係づくりをしたいと考えました。

これまでの国立大学は、支援をいただいた方に対して、大学側からの働きかけが弱かったと思います。支援をいただくだけでなく、今度は大学側からも、例えば大学の情報を提供したり、イベントを企画して参加してもらおう等積極的に働きかけていくことで、「双

方向の関係」を作っていきたいと考え、この制度を発足しました。



Q 会員制度での地域との関わり方は？

— 気持ちの面での交流を増やしていきたいですね。

現在の島根大学は、公開授業に参加できたり、図書館を自由に利用できるなど、すでに開かれた大学になっています。プラスαであと何ができるかと考えた時に、気持ちの面で大学と地域が近づけるような場を作りたいと考えました。それが昨年10月に第一回を開催した「島大会員のつどい」です。

Q 「島大会員のつどい」、どんな内容ですか？

— 島大会員の方々と楽しみを共有する場です！

初回は、松江クラシック音楽祭音楽監督の朝枝信彦さんのご厚意でク

SNSでもタイムリーな記事が見れると思います。

(島根県鹿足郡・30代男性)

大学の行事について、もっと早めに市民にお知らせしてほしいです。

(島根県松江市・70代女性)

新しく生まれ変わろうとしている島根大学を応援致しております。

(奈良県奈良市・70代男性)



朝枝信彦さんと、イタリアのピアニスト、ジェラルド・キミーニさんの演奏の様子。

ラシックコンサートを行いました。支援基金から支援を受けて留学した学生による留学体験の発表や、お茶を飲みながらの交流の席も設けました。大学の取り組みに興味を持ってくださる方はもちろん、音楽が好きなら、イタリアやフランスに興味のある方など、こちらが想定していたよりも幅広い方にお越しいただきました。交流会では、参加者の方からたくさん話しかけていただき、共通の趣味の話もしましたし、大学についてのご意見もいただきました。終始賑やかで、こんな機

会は今までほとんどなかったと思いますね。
第一回はコンサートでしたが、音楽に限らずいろいろな形があると思っています。年に1回と言わず、音楽でも美術でも、学問的なものでも、我々と島大会員の方とが楽しみを共有できる機会をもっと増やしていきたいと考えています。それぞれの嗜好や興味に応じて気になったものに参加いただき、大学に少し入り込んでもらって、大学の教職員や学生、同窓生等様々な方と交流していただきたいですね。

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなで
緑を守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL0852-32-6240
<http://omise.seikyou.jp/shimane>

求人情報 **メリット**

WEBサイトで
フリーペーパーで

お仕事見つかる
メリット

メリット 求人 検索

鳥取・島根のおしごと探しの
Webメリット

株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

Q 会員・地域の皆さんへ
メッセージを

―地域と一体となった大学づくりに
ぜひご協力をお願いします。

ぜひ一緒に島根大学を育てていただきたいです。それと同時に、大学とともに楽しんでいただける会にしたいと考えています。ぜひ島大会員にご加入いただき、一緒に楽しみながら、学生や大学を育てていただけるとうれしく思います。

支援基金の援助を受けて
留学した学生の発表。

島大会員のご案内

加入についての詳細はホームページをご覧ください。だくか、支援基金担当までご連絡ください。

島根大学 総務部 総務課
支援基金担当

TEL 0852-32-6015

島大会員 検索

読者の声
Voice

広報しまだい vol.34に
寄せられた声をお届けします。

キラリ島大生の河野さんの記事はとても
興味深かったです。日本語が分からない人
のために英語を学ぶ姿勢がすばらしいです!

(島根県益田市・50代女性)

地域密着型の地元の
「しまだい」をさらに
アピール、実践してください!

(島根県出雲市・60代女性)

防ぎ得る外傷死や外傷後遺症の減少を目指して

外傷診療の最先端が島根に

医学部では、全国初となる「Acute Care Surgery(アキュート・ケア・サージェリー)講座」及び、専門的な外傷診療を行う「高度外傷センター」を設置しました。さらなる救命率の向上と外傷救急医療の底上げに取り組み渡部広明センター長にお話をうかがいました。



外傷診療の体制構築と 人材の養成が急務

「アキュート・ケア・サージェリー」とは、外傷外科、救急外科、外科的集中治療の3つを外科の一領域として考えるアメリカ発の診療概念です。「アメリカでは、重症外傷は外科の中に位置づけられますが、日本では救急に位置づけられ、これは他の国からみると特殊なんです」と、渡部教授は話します。

2000年の厚生労働省の調査によると、外傷を負い救命救急センターに搬送され死亡した人のうち、約40%は適切な治療で助かった可能性があったといえます。外傷診療に関する卒前教育の不足と治療体制が整っていないことも、この結果の要因になって



Acute Care Surgery講座
高度外傷センター

渡部 広明 教授・センター長

診療・教育・研究を柱に 外傷救急医療の底上げを

この外傷診療の課題に、いち早く取り組んだのが島根大学でした。島根は人口対比で見ると、外傷死の割合が多い県ですが、外傷患者を受け入れる体制がありませんでした。このような状況下で、全国で初めて医学部に診療・教育・研究の3つの柱を掲げたAcute Care Surgery講座を設置。2017年8月には高度外傷センター棟が完成しました。

「①患者さんの到着と同時に治療が開始できる体制であること、②センターにO型の血液を常時おくことで素早い輸血が可能であること、③あらゆる外傷に対応できるスタッフが集まっていること、この3つが大きな特長で

学生さんが「目的」を持って入学、日々精進しておられることに強く感銘致しました。

(島根県出雲市・70代男性)

若人のがんばる姿には元気をもらえます。日々の生活でも、何かの大会でもがんばる姿をまた見せてください。

(島根県浜田市・30代女性)

大学が地域に貢献している様子が伝わってきました。

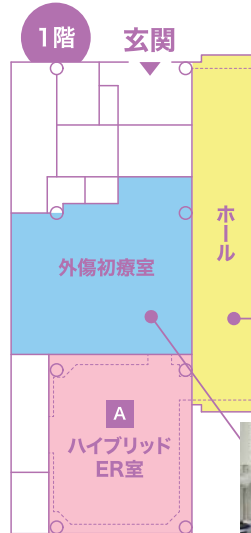
次号も楽しみにしています。

(広島県世羅郡・50代男性)

センター内部を紹介!

1階 外傷診療フロア

重症外傷患者さんの診療を行うエリアです。入口正面には外傷初療室、その奥には、重症外傷患者さんの治療と検査が同時に行えるハイブリッドER室を備えています。初療室の東隣にはホールを設置し、災害時や多数の外傷患者さんの受け入れ・初期診療等が可能なエリアになっています。



救命救急センターと共通の玄関。



最大30名程度が受け入れ可能な広さです。



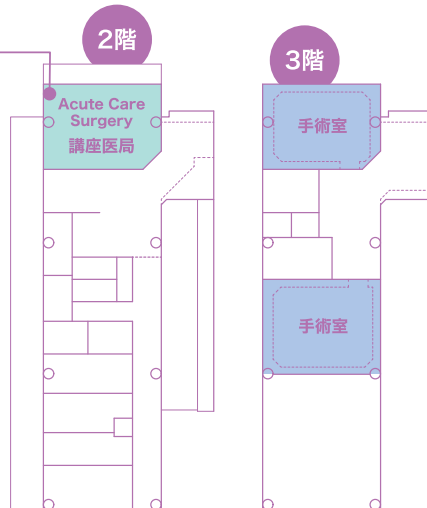
3床の診療台を備えています。手術室空調となっているので、緊急手術も可能です。



センター内の各診療室の状況と、患者さんの心拍数も表示されます。

2階 医局/3階 手術室

2階には講座の医局、3階は2つの手術室があります。医局内に設置されたモニターで、センター内の診療状況や内容をリアルタイムで把握できるようになっています。また、EMIS(広域災害救急医療情報システム)の情報を表示できるモニターも設置し、災害時の情報取得や指揮に最適な環境となっています。



A 国立大学での導入は島根大学が初めてのハイブリッドER。救急室、手術室、CT室、カテーテル治療という4つの機能が1つの部屋で完結できるようになっています。

いと渡部教授は言います。日本の救命救急センターは、初期診療は救命救急の医師が行い、診療結果によって専門の医師に治療を引き継ぐものです。「経済効率は良い反面、治療が開始されるまでに時間がかかりすぎます。そこで、即座にどの領域でも対応できる医師の養成と配置体制が必要となってくるのです」。

「また、設備面でも、日本に9箇所しかないハイブリッドERを導入し、患者さんを動かすことなく診療・治療が可能になりました。」

大学教育の面では、今年度から4年生にAcute Care Surgery講座のチュートリアル教育を開始。5年生では、シミュレータを使って外傷の初期診療の技術を修得、そして6年生では、指導医がマンツーマンで担当し、実際の患者さんを相手によりリアルティのある実習を行います。「これは全国で島根大学だけ。島大の医学生はとても貴重な経験ができますよ」。

そんな講座の次のステップはドクターカーです。「自ら現場に出て行くことで、治療を開始する時間を少しでも早くすることが大切」と渡部教授は話します。「島根県は人口対比でみると重症患者数が多い県。救命率を向上し、限りなく0に近づける努力をしたいし、そういった技術を持つ人材を育てていきたいですね」。日本における外傷診療の最先端として、果敢な挑戦が続きます。

読者の声
Voice

広報しまだい
vol.34に
寄せられた声をお届けします。

エスチュアリーという言葉が興味深かった。
見知らぬ土地に共通点があると
うれしいですね。

(島根県松江市・40代女性)

ジャムやトマトジュース以外で
島大農場で収穫し・加工した
商品をぜひ取り上げてほしいです。

(島根県松江市・50代男性)

しまだい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

元気な地元を創る多様な担い手が活発に交流 「しまね大交流会2017」を開催



今年で3回目となる「しまね大交流会2017」を、11月18日(土)松江市のくにびきメッセにて開催しました。この「しまね大交流会」は、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の目玉事業として平成27年度から毎年開催。主に島根県及び鳥取県内の大学生・中高生の地元への就職・進学を幅を広げ、地域への若年層の定着を図るキャリア教育の一環として、島根大学・島根県立大学・同短期大学部・松江工業高等専門学校・島根県・経済団体などをつくる実行委員会が主催しているものです。

当日は島根・鳥取の企業・行政・大学研究室等209ブースの出展、学生約1200名を含む2200名を超える来場者があり、会場は若者と大人の交流で熱気に包まれていました。

さらに今回は、大学・高専以外にも隠岐島前高校や江津の島根職業能力開発短期大学校からも多くの生徒の参加があり、各校で進路教育等のために「しまね大交流会」を活用されるなど、島根県全体の各地域・各分野にも拡がりつつあり、今後さらなる発展の可能性が期待されます。

TOPICS

2

世界各地からの留学生が集う 平成29年度秋季入学式を挙行



10月11日(水)に松江キャンパスにて、平成29年度島根大学秋季入学式を行いました。今年度は、大学の総合理工学研究科及び生物資源科学研究科に、合計10名の外国人留学生が入学。服部学長が「大学院において専攻する分野の勉学に励み、所期の目的を達成されることを祈念する。同時に日本語を学ぶことで日本文化への理解を深め、日本の学生との良い交友関係を築いてほしい」と式辞を述べました。

TOPICS

3

教職員、学生が伝統行事に触れる 松江祭鑿行列へ参加



城下町・松江市の秋を彩る伝統行事「松江祭鑿行列」が10月15日(日)に開催され、島根大学からも学生33名及び教職員15名が参加しました。当日は、あいにくの雨でしたが、各鑿庫毎で揃いの法被に身を包んだ学生及び教職員は練習の成果を発揮し、沿道の声援を浴びながら祭りを楽しみました。この経験を活かして学生が今後益々地域の方々と交流の場に積極的に参加してくれることを期待します。

キラリ★島大生 学びのチカラ ⑤



なかやま ともりの
中山 智徳 さん
生物資源科学部 農林生産学科 2年

松江市出身。転勤の関係で小学校まで飯南町に住み、父親が林業職ということもあって、小さい頃から森林に触れる機会が多かったことが今の活動の原点になっているのだとか。

日頃から専門的な研究や地域で活躍する学生たち。そんな輝く島大生の教育・研究等の活動の特集するシリーズ企画です。今回は、「島根大学木質バイオマス活用研究会」の代表を務める生物資源科学部の中山さんに、飯南町での取り組み内容や今後の展望について伺いました。

飯南町での取り組みを学び 中山間地域の活性化方法を探る

飯南町ツアーを独自に企画
森林の魅力を幅広く伝える

鳥根県のみならず全国各地で行われている中山間地域の活性化への取り組み。このテーマについて、「木質バイオマス(※)の活用」という観点から考えようとしているのが、中山さんが代表を務める「木質バイオマス活用研究会」です。生物資源科学部の学生で構成される研究会の、現在の活動フィールドは飯南町です。「中山間地域の活性化は、各地で取り組まれているので、自分たちも木質バイオマスを活用して何かできないかと考えたんです」と話す中山さん。森林管理や活用の実態を飯南町で学ぶこの活動は、平成29年度



ツアー参加者から好評だった森林セラピーの様子。

学生の自主的
活動プロジェクト
(プロジェクト
S)に採択され、
6月から活動を
開始しました。

プロジェクト
の大きな取り組みは2つです。一つは中山さんたちが企画した「森っていくにやんツアー」、もう一つはこれからの飯南町の地域と林業のあり方について話し合う「いーなん森の交流会」です。10月に実施したツアーは学内で参加者を募り、生物資源だけでなく他学部も含めた21名の学生が参加。飯南町木質バイオマスセンターでおが粉や薪の生産過程を見学し、同センターで作られたおが粉を使用している来島牧場を見学したほか、中山間フェアへの立ち寄り、飯南町が実施する森林セラピーへの参加等、盛りだくさんの内容でした。



12月におこなった交流会の様子。

森林をより身近な存在に
継続的な活動を目指す

「まずは現状を知ってもらうことで、少しでも森林に対する意識が変わればと思っています。同時に、中山間地域に行きたいという人が増えるとうれしいです」。プロジェクト自体は1年間で、今後も飯南町の方々と継続的に関わりを持っていききたいと中山さんは言います。

大学卒業後は、林業に関わる仕事に就きたいと考えている中山さん。「今回は飯南町での活動でしたが、他の地域も将来的には人口がどんどん減っていくと思います。中山間地域にある豊富な資源をもっと活かしているんなことをやっていけば、興味を持ったたり目を向けたりする人も増えてくるはず。それが将来的には日本全体の活性化に繋がるような気がしています」と、先を見据えます。

※木質バイオマス…バイオマスとは、生物資源(bio)の量(mass)を表す言葉で、「再生可能な生物由来の有機性資源(化石燃料を除く)」のこと。具体的にはもみ殻や薪、おが粉などを指す。そのなかで、木材に由来するものを「木質バイオマス」と呼ぶ。

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

里山管理研究会



1. 2017年7月に大学公認サークルに、生物資源科学部の学生を中心に、現在30名ほどが所属しています。2. 焼畑は春と夏の2回。昨年は、焼畑跡地で作ったソバを粉にしてクッキーを作り、地元の祭りで販売もしたそうです。

焼畑農業を通じて中山間地の課題に取り組む

奥出雲町をフィールドに、焼畑農業に取り組んでいる「里山管理研究会」。「中山間地に広がる竹林の問題を、焼畑で解消していこうというのが活動の趣旨です」と、代表の古賀さんと河西さんが話します。学内では週に1度の勉強会、現地では焼畑を行うための環境作りから、焼畑跡地での農作業まで1年がかりで活動をこなしています。活動には地域の協力が不可欠で、場所を提供して下さる方や焼畑について教えてくださるNPOの方、消防団の方など、地域の人との関わり中で新たな気付きも得られているそうです。中山間地活性の一助を目指して、精力的な活動が続きます。



楽しくプレーしながら結果が出せる練習を

「SMFC」は6年前に発足したまだ新しい団体です。フットサルは、サッカーに近いと思われがちですが、屋内の狭いコートで行うため、攻撃や守備を全員で行います。そのため、試合展開はバスケットに近いのだそうです。部活は週2回、男女一緒に練習を行っています。現部長の浅井さんが「楽しくできることが一番」と話す通り、和気藹々として活気に溢れています。正式な大会は夏のオールメディカルと春先の中四国大会ですが、今後は部の良い雰囲気を持続しつつ、大会でも結果を出せる練習をしていきたいと浅井さんは言います。学業との両立をしながら、練習メニューの試行錯誤が続きます。

出雲キャンパス

SMFC

(Shimane Medical Futsal Club)



1.現在の部員は35名で、サッカー経験者から初心者まで幅広いといえます。2.近隣校と練習試合をすることもあって、昨年10月には初めて、鳥医大、県立大、松江キャンパスの4校交流戦を医学部主幹で行いました。



島根大学はスサノオマジックを応援しています!

波多野 和也
選手に
Interview

皆さんの応援が 僕たちの力になる

B1昇格を果たした記念すべきシーズンも折り返し地点。新ステージで奮闘を続けるスサノオ戦士の中で、島根に戻ってきた初めての選手が波多野和也選手だ。神話第3章途中から第4章の終わりまでスサノオマジックに所属し、今シーズン島根復帰した波多野選手に、島根への想いやチームにおける役割についてうかがった。

—久しぶりの島根県はいかがですか？

島根は比較的のんびりしたところだと思いますが、僕自身ももとのんびりしているんで、そのあたりは合っていますね。でもちょっと寒いかなと思います。寒いのは苦手なので(笑)

—シーズンもただただ。どんな気持ちで臨んでいますか？

B1での初めてのシーズンなので、正直、やっぱりB2のチームなんでしょ、みたいな感じで言われることもありましたが、でもそれは実際に戦ってみれば分かることで、そうやって人々たちを見返したいという気持ちでやっています。自分たちの力を信じてやれば大丈夫だと思っていますよ。

—チーム内での波多野選手の役割は？

僕はとにかく一生懸命やっただけなので(笑)そういうところを若い選手たちが見て、真似してくれたりいいなとは思っていますね。

—島根の方へメッセージをお願いします

テレビで応援するのほひとつの形ですが、試合会場は画面越しでは味わえない迫力が体験できます。会場の応援は僕たちの背中を押してくれますし、その応援があるからこそ負けられないという気持ちがより強くなるので、ぜひ会場に来て応援していただきたいですね。



profile

波多野 和也 選手 #10

ブラジル出身。ポジションはパワーフォワード。2012年途中から2014年までスサノオマジックに所属し、2017年6月より再び島根に復帰。

島根スサノオマジックの最新情報は…

島根スサノオマジック公式HP <http://www.susanoo-m.com/>

島根スサノオマジック [検索](#)

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 ☎0852-60-1866 (平日10時～18時)

また、島大生のホームゲーム運営サポートボランティアも募集中。詳しくは学生支援センターまで。

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送いたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※平成29年8月1日～平成29年11月15日にご寄附いただいた皆さま(五十音順・敬称略)

冠寄附 坂根正弘(学生ベンチャー基金、学生ベンチャー支援)

法人等からのご寄附 医療法人 三浦医院 株式会社 ミック

個人からのご寄附

青木修二	秋山達朗	堆 美保	吾郷チエ子	東 秀一	安部 登	新井朝雄	嵐 元宏	荒瀬 榮	有馬毅一郎	粟野道夫	井川幹夫	池永 健
石飛寿実夫	石橋 剛	泉 照之	確部 威	伊藤幹夫	伊藤 崇	井戸口勇	稲生田妙子	井畑忠之	井原 孝	今城典子	岩佐順吉	岩田 奨
岩堀和夫	岩本秀俊	上原正義	植松 修	内久保晋一郎	内田寛志	内田義孝	馬田恒隆	江島和代	江田治義	大藤麻男	大島和典	太田良親
大浜誠一郎	大森範明	大矢敬子	岡田光弘	小川 巖	小川 巖	沖貝 浩	原博子	加藤巡一	金原成広	鎌田益幸	嘉本龍二	川口公男
川本謙一	菊池卓士	岸原健司	北山新二	亀甲保弘	木原淳一	木村高司	楠 伸治	熊澤 修	倉井正喜	高下直樹	河野美江	郷原美春
小林 茂	小林祥泰	小山伸一	斎藤英明	境 英俊	佐々木優	三瓶良和	塩田芳夫	塩原 潔	信濃憲司	柴田広大	下田好之	下山耕司
紹慶公雄	新川 修	杉原 明	岡田光弘	須藤英夫	須山弘一	瀬尾浩一	千家充伸	宗 陽子	園山哲也	高取謙次	高橋 徹	田口早苗
多久和徹	竹下正博	田中盟人	田中 薫	田中俊幸	谷垣 尚	玉井洋子	土江 隆	長岡茂樹	中田行彦	永美護郎	中村浩之	名取瑞樹
滑 純雄	錦織禎徳	錦織由紀子	西田典数	野崎誠二	野崎裕文	野崎洋康	野田 寛	野村律夫	萩嶺浄信	蓮岡法暉	羽地信子	浜田 太
早津義雄	原 恭正	肥後功一	久富公資	須藤英夫	菱沼広行	平井明彦	平川正人	廣瀬昌博	吹谷富江	福井 勇	福島律子	福岡米子
福村武雄	藤井浩基	藤原伸夫	布野隆幸	古瀬浩介	古瀬浩介	古用哲夫	細木弘道	横原 茂	増永二之	松浦晃幸	松浦政裕	松浦良紀
松岡弘親	松永弘道	三浦典子	宮崎和明	武藤哲也	武藤哲也	棟石 均	村上周平	森田泰精	森田 茂	杜山総一郎	柳原敏郎	矢野 健
矢野素夫	山口勝樹	山口 清	山口 清	山口修造	山口修造	山崎文子	山根寿己	山根真明	山根研一	山本恭二	山本則文	山本則文
行武禎一	横井昌治	横山統晨	吉川 進	吉木 茂	吉田啓二	吉田三枝子	吉見 顕	吉山 治	李 樹庭	和田亮介	和田 力	渡部博之

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015 (総務課 支援基金担当)

http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/
※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

さて、今号では新しく発足した島大生員制度について取り上げております。会員特典として、イベントのご案内や広報しまだいの送付、島根大学オリジナルグッズ贈呈など、様々な特典をご用意しております。これまで以上に皆様との交流を増やし、地域と一体となった大学づくりを目指していきますので、ぜひ会員へのご加入をお待ちしております。

広報しまだいでは、今年も島根大学の魅力を地域の皆さまへお届けし、地域と本学を繋ぐ広報誌となるよう、編集スタッフ一同精進してまいります。巻末のアンケートハガキをご利用いただき、皆様からのたくさんのご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

本年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見・ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060
島根大学 広報室
TEL.0852-32-6603 FAX.0852-32-6630
E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「りんごジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成30年3月9日必着



今から1300年も昔、733
(天平5)年に編纂された『出雲国
風土記』。全国で作られた風土記の
なかでも、ほぼ完本で残る唯一の
ものです。
あまり知られていませんが、
この『出雲国風土記』の内容や、
現代に伝えられたいきさつには、
東海地域との深い関わりがあります。
フォーラムでは、歴史学・考古学の
最新研究成果をもとに、『出雲国風土記』を
めぐる出雲と東海との関係について
紐解いていきます。

古代出雲文化

Forum on Ancient Izumo Culture

フォーラムVI

～古代出雲と東海～

平成30年 **3月3日 土**

13:00 ~ 16:30

会場

名古屋国際会議場
レセプションホール
愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号

定員

450名(先着順) 参加費 **無料**

参加には事前のお申し込みが必要です。
(事前にお申し込みいただいた方には、後日入場整理券を送付します。)



日御崎神社本 出雲国風土記



日御崎神社本 出雲国風土記 奥書
原書写初代藤主 徳川頼直の自筆、花押入

福佐の浜(写真提供:出雲市)

【主催】島根大学 【共催】島根県、島根県教育委員会、松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町
【後援】文化庁、TSK山陰中央テレビ、山陰中央新報社、BSS山陰放送、日本海テレビ、株式会社山陰合同銀行